５ 学校アクションプラン

<table>
<tr><th colspan="5">令和2年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－1－</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="4">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="4">学習内容の確実な習熟と学習・授業への意欲向上</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="4">・ 学習内容がよく定着していない生徒が見られる。
・ 授業に対して意欲的に臨む姿勢に欠ける生徒が見られる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="2">① 単位修得率
90%以上</td><td colspan="2">② 学習・授業についてのアンケートで「授業に真面目に取り組んでいる」と回答する生徒の割合
95%以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="4">・ タブレット等ＩＣＴの効果的な活用により、授業改善に取り組み、より分かる授業を目指す。
・ 適切な課題を設定し、確実な提出を促すことで学習内容の定着を図る。
・ 生徒の実態に応じて、通信科目の選択を提示するなど、多様な学習の機会を確保できるようにする。
・ 学習状況調査など、学習に関する各種アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。また分析結果を個人面接等で活用し、学習への意欲を喚起する。
・ 進路指導部と連携し、進路目標を意識して学習に取り組むよう促すことで、授業への意欲にもつながるようにする。
・ 『履修の手引き』や『科目登録ガイダンス』を効果的に活用し、卒業後の進路を見通した主体的な科目登録ができるように履修指導を充実させる。</td></tr>
<tr><td>達成度</td><td colspan="2">① 92．1%(前期)</td><td colspan="2">② 95．9%</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="4">＜授業改善・教員研修等＞
・ 多くの授業で、タブレットを始めICTを活用し、よりわかる授業に取り組んだ。
・ 互見授業期間を行い、お互いに積極的に授業を参観して、よりよい授業改善に努めた。
＜生徒への働きかけ＞
・ 面接週間や年次集会等で、授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。
・ 臨時休校期間や長期休業期間には各教科より課題を設定し、学習の継続を図った。
・ 進路指導部、教科、年次と連携し基礎学力コンテストを通し学力の定着を図った。
・ 次年度科目登録を通じて、進路の見通しを持たせるように学習への意欲喚起を図った。
・ 欠課が多い生徒には、保護者と連携し早めに注意喚起を図り履修不成立防止を図った。
＜学習・授業についてのアンケートより抜粋＞
「授業が理解できるよう努力している」　91.8%
「先生の説明はわかりやすい」　84.9%</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td>目標を達成した。</td><td>A</td><td>目標を達成した。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="4">生徒の単位修得率を上げるためICT活用の校内研修や互見授業により、指導力の向上を目指していることは大いに評価できる。今後もタブレット活用による授業改善に努めてほしい。支援を要する生徒には、保護者・SC・SSWとの連携を図り取り組んでほしい。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="4">・ わかる授業のための生徒1人1台のタブレット活用については、さらに検討の余地がある。
・ 早期から学習意欲の高い生徒に対して進路指導部と連携し、より高い意欲喚起に努めたい。
・ 欠課の多い生徒で未履修になるケースがあり、なかなか埒のあかないケースもある。今後ともSC・SSWとの連携等を通じて未履修の数が減少するよう、粘り強い指導に努めたい。</td></tr>
</table>

令和2年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－2－				
重点項目	**学校生活**			
重点課題	**① 安全意識の高揚**		**② 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。**	
現　　状	・ 交通事故が２９年度４件、３０年度０件、元年度１件発生しており、スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒が見られる。 ・ １日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムが確立せず、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒が見受けられる。また、生活リズムを整えることへの意識は高まっているが、自主的な行動に移せない生徒が見られる。			
達成目標	**① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 ゼロ件**		**②「生活リズムと健康のつながりを意識して行動できた」とする生徒の割合 60%以上**	
方　　策	・ 交通安全教室を実施し、安全意識を高める。また、定期交通安全指導を実施し、歩行時、自転車運転時におけるマナー遵守の意識を向上させることで、未然に事故防止を図る。 ・ 全校集会や年次集会等で、命の大切さを考える機会を持ち、自他の命を尊重する意識や態度を育成する。 ・ 車体検査を前期、後期に１回ずつ実施し、十分に整備された自転車の使用を徹底させる。 ・ 交通事故が発生した場合に、適切な対処ができるよう資料を活用し指導する。		・ １日の生活リズムについて、実態把握や意識を知るために、アンケート等を実施する。 ・ 生徒保健委員会による啓発活動を通して、生徒自身が睡眠や食事などの大切さを意識し、生活リズムの確立・改善に努められるように促す。 ・ 「心と体のつながり」についての理解を深め、健康意識を高められるように、生徒向け研修会を企画・実施する。 ・ 生徒が自身の生活リズムについて、自分でふり返るためにアンケートを実施し、健康管理への意識を高める。	
達 成 度	**① 2件(令和3年1月現在)**		**② 58%(令和3年1月現在)**	
具体的な取組状況	・ 全校集会や年次集会、掲示物等を通して、いのちの大切さとともに交通安全に対する啓発を行った。 ・ １年次生対象に交通安全教室、自転車通学生対象に車体検査を２回実施した。 ・ 毎月２回登校時間帯に、校門付近で交通安全指導を実施した。 ・ 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう、資料「交通事故にあったら」を作成し配布（スマホ内に保存）した。		・ 今年度は「新型コロナウィルス感染予防」の観点から、衛生管理と合わせて、免疫力アップのために生活リズムの確立・改善を促すことを目標とした。 ・ 感染予防には個々の生徒が意識して衛生・健康管理に努めることが第一であるため、保健だよりの発行や、文化祭での講習の実施など、生徒保健委員会による生徒発信の啓発活動に重点を置いた。 ・ 年次と連携し、ヤングヘルスセミナー（性教育／飲酒・喫煙と健康）を実施した。	
評　　価	**B**	**目標達成にやや及ばなかった。**	**B**	**目標達成にやや及ばなかった。**
学校評議員の意見	命を大切にする指導は、継続的に行われるべきである。思いがけない事故に遭遇した時の対処については、とても難しいことなので粘り強く指導してほしい。		長期化するコロナ禍で、心身の不調や生活のリズムが乱れることが起きやすいので、引き続き手厚い指導をしてほしい。	
次年度へ向けての課題	・ ８月に２件、生徒の自転車と車の接触事故が起きた。引き続き事故を未然に防止するため、集会やST等の機会を通して、いのちの大切さ、交通ルール・マナーを守ることの大切さを伝え、安全意識が根付くように粘り強く指導していく。 ・ 「交通事故にあったら」の有効活用。交通事故にあった場合、傷害が軽微であっても必ず相手(氏名、住所、電話番号、車のナンバー）を確認し、すぐ警察、自宅、学校等へ連絡することを徹底させる。		・ 生徒数が減少し、保健委員として活動する生徒も少なくなり、委員会を中心とした活動の継続・発展が難しくなっているのに対し、感染症対策のための生徒発信の啓発活動がより一層求められている。活動内容を現状の人数でできることに絞りつつ効果的なものにする必要がある。 ・ コロナ禍が長期化するにつれ、通常とは異なる環境でストレスを抱えている生徒に対する心のケアや、ストレスマネジメントについての学びの必要性がますます高まると予想される。それらに対応するための体制作りや工夫が必要である。	

令和2年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－3－		
重点項目	**進路支援**	
重点課題	**適切な進路目標を設定し、自己実現できるようにする**	
現　　状	・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持てない生徒が見られる。 ・ 目標設定に係る情報量の不足が顕著である。 ・ 進路達成における基礎学力および基本的なマナーが、不足している生徒が見られる。	
達成目標	**① 卒業予定者の進路目標達成率 100%**	**② 2月の進路希望調査で、進学･就職を明確にできる生徒の割合 1年次75%以上　2年次90%以上、**
方　　策	・ 職業研究、インターンシップ、進路特別講座（上級学校･職場見学会、先輩講話、進路ガイダンス、社会人講話など）を事前･事後指導を併せてきめ細かく行う。また、これらにおいて進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的な進路意識の向上を目指す。 ・ 年次と連携し、生徒に対し速やかな進路情報の提供を図るとともに、情報誌の入手により進路情報の収集を図り、生徒および職員が共有する情報量の増加を目指す。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けさせるよう指導する。 ・ 基礎学力や基本的マナーを身に付けるために、放課後などに必要に応じて個別学習を行い、進路実現力の向上を図る。 ・ 英数国を中心とした年次別学習を実施した上で、基礎学力コンテストを行い、結果を自己点検させることで、基礎学力の定着を図る。	
達 成 度	**① 卒業予定者の進路目標達成率 １００％　就職　５名 進学１０名　・１月末現在 他　３名　・２名結果待ち**	**②進学・就職を明確にできる生徒の割合 １年次　８４％ ２年次　９７％　・１月末現在**
具体的な取組状況	・ ３･４年次対象の進路ガイダンス（６月）への２年次希望生徒の参加、１・２年次対象の進路ガイダンス（１月）への来年度の４年次生の参加などの対応を行い、意識の高揚を図った。 ・ 上級学校・企業見学会の中止を補うために、企業見学会を新たに企画し、就職への理解を深める機会とした。 ・ 企業と情報交換できる機会が激減したため、応募前企業見学においては、例年は一人３社までのところを必要に応じて４社目を認めるなど、しっかりと企業を選べる対策を行った。また、就職試験開始が１ヶ月延期されたことで、応募前職場見学の時期を修正するなど、柔軟な対応を行った。 ・ 進路意識が高まるよう進路講話を各年次に実施し、意識の高揚を図った。さらに、職員室前廊下に学習スペースを設置し、生徒の学習ニーズに応えることのできる環境を整えた。「となみ野キャリアアッププロジェクト」として、進学希望者に対する自主学習の環境整 ・ 備、個別指導体制の整備など、総合的な学習支援体制の充実に取り組んだ。	
評　　価	**A**	**目標は①②とも達成した。**
学校評議員の意見	進路決定100%はとても良い。小論文や面接指導において、生徒一人一人に行き届いた手厚い個別指導によるものと考える。コロナ禍の中で進路指導は大変難しい状況にあるが、次年度は感染対策を行い上級学校・企業見学会等の行事を是非実施してほしい。	
次年度へ向けての課題	・ 就職希望者への支援(応募企業の決定や面接練習等)は、早い時期から年次職員を中心としながら、ＪＳＴや校務運営委員と連携して、学校全体で行う必要がある。また内定後についても、就業への意欲を継続できるような指導が必要である。 ・ 進学希望者への個別学習支援等は進路指導部で取りまとめ、早い時期から学校全体で行う必要がある。特に難関校を目指す生徒には、目的を共有する生徒でのチーム体制を組むなどの取り組みが不可欠である。 ・ 特別な支援が必要な生徒への本校での対応等について、企業や上級学校との十分な情報交換など、連携を深める必要がある。	

<table>
<tr><th colspan="4">令和2年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－4－</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">特別活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">① 生徒会活動･委員会活動への積極的な参加</td><td colspan="2">② 図書館の有効な活用</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・ 集団活動に苦手意識をもち、大勢でのコミュニケーションを必要とする場面になると場になじめない生徒や、生徒会活動や委員会活動の企画運営、参加に消極的な生徒が見られる。
・ 生徒が読書をするのはプライベートな時間が中心である。校内では、読書の質を向上させたり、学習等における図書館の活用法についての支援が効果的であると考えられる。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="2">① 生徒会活動･委員会活動の充実度
80％以上</td><td colspan="2">② 図書館の活用率向上
70％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・ 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、活動の意欲の向上を図り、その実践に努める。
・ 生徒会活動、委員会活動において、1人ひとりの役割を生徒が自覚し、責任を果たすことができるよう配慮する。</td><td colspan="2">・ 多様な生徒のニーズに応じた作品や進路に関する書籍を準備する。案内･掲示や行事の進め方を工夫し、読書に対する意識を高めて図書館の活用率を上げる工夫をする。
・ 図書委員が積極的に委員会活動を行い、学校全体に図書館の活用を促すことができるよう指導する。
・ 読書だけでなく、図書館での調べ学習やＮＩＥを推進し、アンケートで実態を把握する。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">① 95％（前期委員会活動、前期クリーンアップチャレンジ）</td><td colspan="2">② 81％（1月13日現在）</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">・ 新型コロナウイルスの影響によりチャレンジデーⅠ・Ⅱが中止となり、何かそれに変わるイベントを行いたいという生徒からの意見を基にし、生徒会主体で企画をした「前期クリーンアップチャレンジ」を実施した。清潔で安心して過ごすことのできる校内環境を目指し、清掃・除菌活動を行うことで、生徒の主体的参加につなげることができた。
・ 生徒1人ひとりが役割を自覚することができるよう、委員会毎での新型コロナウイルス感染症予防対策活動を行った。</td><td colspan="2">・ 今年度の年間貸出冊数は、昨年度より大幅に増加した（R1 133、R2 375）。これは、数人の生徒が本を多く借りているためだと考えられる。また、昨年度に続いて授業で本を紹介する活動が行われた他、空き時間に自習室として利用する生徒も見られ、様々な活用がなされた。
・ 本年度は、特に進路に関する書籍を多く購入した。生徒たちに多く図書館を利用してもらえるよう年次から、集会等で声がけをしてもらった。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td>目標を達成した。</td><td>A</td><td>目標を達成した。</td></tr>
<tr><td>学校評議員の意見</td><td colspan="2">多くの学校行事が中止される中、生徒の自主性を尊重した除菌活動「クリーンアップチャレンジ」の実施が、学校生活の高い充実度につながっているようだ。</td><td colspan="2">生徒図書委員の活動が、図書館活用率の向上につながったことは大変良い。また、自主的な学習の場としての有効活用を期待したい。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="2">・ コロナ禍での行事の在り方について見直し、工夫をしながら企画・運営を行う。
・ 集団活動を苦手とする生徒へ配慮のある働きかけをしていく。
令和2年度
クリーンアップ
チャレンジの様子
 </td><td colspan="2">・ 購入図書の選定、テーマ性をもたせたディスプレイ、生徒主体の委員会活動、行事の企画運営などは、他校の取り組みも参考にしてより良いものにしたい。
・ 後期の読書週間・キャンパスフェスティバルでは、図書委員による「図書館ニュース」の作成をはじめ、図書委員のアイデアをもとにイベントを実施することができた。今後も図書委員の積極的な活動ができるように指導したい。</td></tr>
</table>

令和2年度　　となみ野高等学校アクションプラン　　－5－		
重点項目	**その他（総合福祉科学習指導）**	
重点課題	**専門科目への意欲的な学習**	
現　　状	・「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。	
達成目標	**介護技術の定着度・満足度（生徒の自己評価による） 80%以上**	
方　　策	・生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。 ・生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。 ・関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。 ・個別の配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進める。	
達 成 度	**86．4%（1年次 90．3%　2年次　86．8%　3年次　80．1%）**	
具体的な取組状況	・最初に介護技術の各手順と根拠をしっかり説明した後、実習に入ることを心がけた。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。特に、授業の目標→内容→展開の明示、及び、わかりやすいビジュアルなワークシートの作成に留意した。 ・介護技術の繰り返し練習は今年度は休校のため少なかった。自己評価及び生徒同士の評価を行うことで自分の技術を振り返る機会を設けた。 ・マスク、マウスシールド、フェイスシールドの着用、介護人形の効果的な活用等、介護実技の授業では感染防止対策を徹底した。 ・今年度は高齢者福祉施設での介護実習は実施できなかった。	
評　　価	**A**	**目標を達成した。**
学校評議員の意見	身体接触の制限される感染対策や休校期間では、実習ができない状況にもかかわらず、介護人形を使った学習活動の工夫により生徒の満足度を高めている。さらに技術の定着度・満足度の高い目標を目指し、これからも地域に貢献できる人材育成を進めてほしい。	
次年度へ向けての課題	・年次が上がるにつれて実技の内容が難しくなるので、自信をつけさせることが課題である。 ・今年度は実施できなかったが、介護技術公開発表の場を継続し、生徒同士の学び合いを促す。 ・介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。 ・実技テスト終了後、生徒一人ひとりの評価を伝えて復習し、介護技術が定着するよう指導する。 ・支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。 ・生徒の意欲を向上させる声かけや対応、評価について共通理解を図る。 ・今年度は高齢者福祉施設での介護実習は実施できなかった。次年度は実施する予定である。	

令和２年度　学校総合評価

６　今年度の重点課題に関する総合評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの教育活動となった。換気や消毒を励行し、ソーシャルディスタンスの授業形態、学習課題の工夫、集会等でのタブレット活用など学校全体で対応した。

生徒の多様化、家庭環境の複雑化はますます進み、個別の支援や合理的配慮が不可欠となっている。生徒自身が作成する「プロフィールノート」は実態把握にとても役に立った。保護者、ＳＣ・ＳＳW、医師などの専門家と連携して職員間の情報共有や研修を進めた。

学習活動では、授業のユニバーサルデザイン化、ICT の活用による改善に努め、年２回の互見授業週間に加え、教師間で授業スキルを学び合う校内研修を実施した。また、職員室前に生徒が積極的に質問できるスペースを新たに設置した。生徒の単位修得率に良い結果が得られている。

進路支援では、昨年度から「キャリアアッププロジェクト」を策定しており、いち早く生徒の自己理解や可能性を探究させるために、年次の進行に合わせた進路ガイダンス、個別指導、特別講座等を実態に即して実施した。自主的な学習ができる部屋「進路総合プラザ」を設置している。

コロナ禍により学校行事やボランティア活動が中止となることも多かったため、生徒の個別相談の受け入れや面接の充実を図り、生徒の充実感が高まるように努めた。

総合福祉科では、計画していた地域での現場実習ができなかった。介護人形の活用や思いやりの心の育成に重点を置くことで、学習意欲の向上、資格取得、介護技術の定着を図った。

７　次年度へ向けての課題と方策

(1) グランドデザインの改善を行い、スクール・ポリシーの策定を進める。

(2) 令和４年度から始まる新学習指導要領に対応し、カリキュラムマネジメントを進める。

(3) タブレット導入により、ICT 機器の校内研修を進め、効果的な学習指導を探究する。

(4) 生徒の可能性を引き出すために、個に応じた指導を充実させ、進路に対する意識の向上を図る。

(5) 引き続き専門家と連携して合理的な配慮を必要とする生徒に関する情報を共有し、手厚い支援を教職員全員で行う。

(6) 学校行事の企画・運営では、感染症対策を徹底して実施に向け努力する。

(7) 感染症対策を行った上で実習を実施し、生徒同士の学びあいの機会を増やし、介護技術の一層の定着を図る。

(8) 社会人とともに学ぶ共学講座は、検温などの感染症対策を行った上で運営する。